

世界で分かる遺訓に



「血の通ったデータだ。世界中の誰にでも意味があることが分かる」と遺訓を発信する可能性を語る渡辺英徳准教授=東京都日野市、首都大学東京

視点 専門家に聞く

「岩手日報社共同で震災犠牲者の行を再現した」といふ思いで取り戻した。2011年から震災「アカイブ」を作ってきたが、基本的には被災時に生きた方のデータのみだった。今回亡くなった方のデータが載った。これによって、これまで「データ」という非常にドライな感じがするが、今回岩手日報社が遺族と関係性を築きながら集めた、血の通ったもの。一人一人の点と点とを繋ぐ時、心理学的な観点から、点と点をつなぐことも重要な役割を果たす。『母親が介介していたのだから取り戻す。亡くなった方がいた。あ、町の体の傾向を分かってきた。平均が分かってきた。』と、渡辺英徳准教授は語る。震災発生時の状況や、被災者の行動履歴、避難経路、避難先など、被災者の行動履歴を「データ」として残すことが、被災者の行を再現し、遺族の心のケアに役立つ。渡辺英徳准教授は、被災者の行動履歴を「データ」として残すことが、被災者の行を再現し、遺族の心のケアに役立つ。

渡辺英徳准教授(首都大学東京)

犠牲者の教え 次代へ



「生き残った人の情報だけでは教訓は残されない。亡くなった人の情報の意義は大きい」と語る今村文彦教授=仙台市、東北大学災害科学国際研究所

今村文彦教授(東北大学)

「震災犠牲者の行動履歴を再現した意義を首都大学東京の渡辺英徳准教授(情報デザイン)に、犠牲者の遺訓をどう生かしていくかについて東北大学災害科学国際研究所今村文彦教授(東北大学)に聞いた。被災者の行動履歴を再現した意義を首都大学東京の渡辺英徳准教授(情報デザイン)に、犠牲者の遺訓をどう生かしていくかについて東北大学災害科学国際研究所今村文彦教授(東北大学)に聞いた。被災者の行動履歴を再現した意義を首都大学東京の渡辺英徳准教授(情報デザイン)に、犠牲者の遺訓をどう生かしていくかについて東北大学災害科学国際研究所今村文彦教授(東北大学)に聞いた。

犠牲者の行動記録

⑤岩泉町、田野畑村、普代村、野田村、久慈市、洋野町

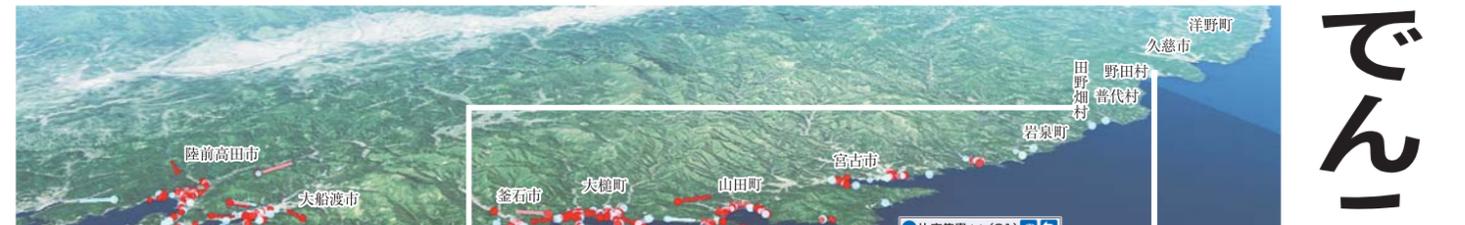
岩手日報社を渡辺英徳准教授の研究が、犠牲者の行動履歴から、命を守るための、まず逃げたという原則があらわれてきた。田野畑村では様子をみて避難が遅れた人が、野田村では災害者救助のため高台から戻った人が津波にのまれた。自動車の移動中に被災した人も少なくない。犠牲者の遺訓を刻み、次の津波では犠牲者を減らすための教訓を立てたい。

【調査方法】震災犠牲者の生き証しを残す企画「忘れぬ」の取材に協力をいただいた県内外の遺族2400人を対象に本社記者が面談と郵送で実施。昨年11月6日から今年1月15日まで遺族1549人から回答を得て、犠牲者2135人(男性1008人、女性1127人)の震災時の行動を分析した。地震発生時と津波到達時にいた場所が判明した1326人は避難行動を再現。遺族の了解を得た687人(男性296人、女性391人)は実名で掲載した。地図は国土院の航空写真を利用している。県内の死者・行方不明者は5796人。「忘れぬ」では、連載を開始した1年3月からこれまでに3428人を掲載している。

限られた時間 様子見て避難遅れる



津波は沿岸部でも、災害弱者救うべく多くの命を奪った。津波は沿岸部でも、災害弱者救うべく多くの命を奪った。津波は沿岸部でも、災害弱者救うべく多くの命を奪った。津波は沿岸部でも、災害弱者救うべく多くの命を奪った。



「てんでん」命を守る

データで見る行動記録 2016年「忘れぬ」遺族アンケート、犠牲者2135人の行動調査より

避難後 **8.7%** が津波浸水域に戻った。

とにかく逃げる 逃げたら戻らない

地震後の行動 **56.6%** がすぐ避難しなかった。

避難場所を過信せず、少しでも高い場所へ

助かるための避難訓練を

5.7% が避難先で津波に襲われた。

54.9% が自宅や自宅付近で被災した。

避難場所を過信せず、少しでも高い場所へ

助かるための避難訓練を

5.7% が避難先で津波に襲われた。

54.9% が自宅や自宅付近で被災した。

焦点 野田村

海沿いの道路回避

野田村では、車で移動中に津波に巻き込まれた犠牲者が多かった。野田村では、車で移動中に津波に巻き込まれた犠牲者が多かった。野田村では、車で移動中に津波に巻き込まれた犠牲者が多かった。

記憶 遺族の思い

遺族の思い、高台と安心せずに。遺族の思い、高台と安心せずに。遺族の思い、高台と安心せずに。

岩泉町	田野畑村	普代村	野田村	久慈市	洋野町
人口 9802人 (11年3月比906人減)	人口 3446人 (11年3月比392人減)	人口 2788人 (11年3月比277人減)	人口 4109人 (11年3月比497人減)	人口 3万5597人 (11年3月比1192人減)	人口 1万6585人 (11年3月比1190人減)
死者 7人	死者 14人	死者 0人	死者 38人	死者 2人	死者 1人
不明者 0人	不明者 15人	不明者 1人	不明者 0人	不明者 2人	不明者 0人
関連死 3人	関連死 3人	関連死 0人	関連死 1人	関連死 2人	関連死 1人

きょうからサイト全面公開 PC・スマホ

岩手日報社は9日、首都大学東京の渡辺英徳准教授の研究室と共同で制作した「忘れぬ」震災犠牲者の行動記録の特設サイトを全面公開しました。パソコンやスマートフォンで閲覧いただけます。画面の青色は男性、赤色は女性。軌跡は移動を表し、自動車など乗り物の移動の場合は長くなります。

使い方

サイトを開き、オープニング画面が終わると操作できます。画面左下で再生/停止が可能。画面下の時間軸スライダーは左が地震発生時の2011年3月 日午後2時 分、右に行くほど津波発生時に近づいた時間の経過を表します。

①再生/停止 ②時間軸スライダー ③視点切り替え ④地図切り替え ⑤犠牲者の行動記録情報 ⑥犠牲者の行動記録情報 ⑦2D、3Dの切り替え ⑧犠牲者の行動記録情報 ⑨クリックするとGoogleストリートビューが起動 ⑩⑨の操作をすると下に被災地の様子が出る